

< あなたの治療について >

血内-Mosunetuzumab (皮下) (2-17c)-FL (G1-3A)-q3w

今回の治療は、Mosunetuzumab という治療法で、ルンスミオという注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間(21日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
①	アセトアミノフェン レスタミン (熱・痛みを抑える薬)	内服		お休み
②	ルンスミオ (抗がん剤) 45mg/body	皮下注		

★ 注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。

◎起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

ルンスミオによる

●好中球減少症 ●サイトカイン放出症候群 ●注射部位反応

◎特徴的な副作用について

ルンスミオにおける

●サイトカイン放出症候群

「吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸(どうき)、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血」などの症状

●神経学的事象(免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む)

「頭痛、めまい、立ちくらみがする、力が入らない、言葉が出ない、ふるえ、けいれん、屋間に眠気が強い、読み書きができない、意識の低下、物忘れ」などの症状

●腫瘍フレア

「発熱、痛み、紅斑、体がだるい、リンパ節(首、わきの下、股の付け根など)のはれ、胸水(息苦しい、息切れ、咳、胸の痛み)」などの症状

●腫瘍崩壊症候群

「意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ」などの症状

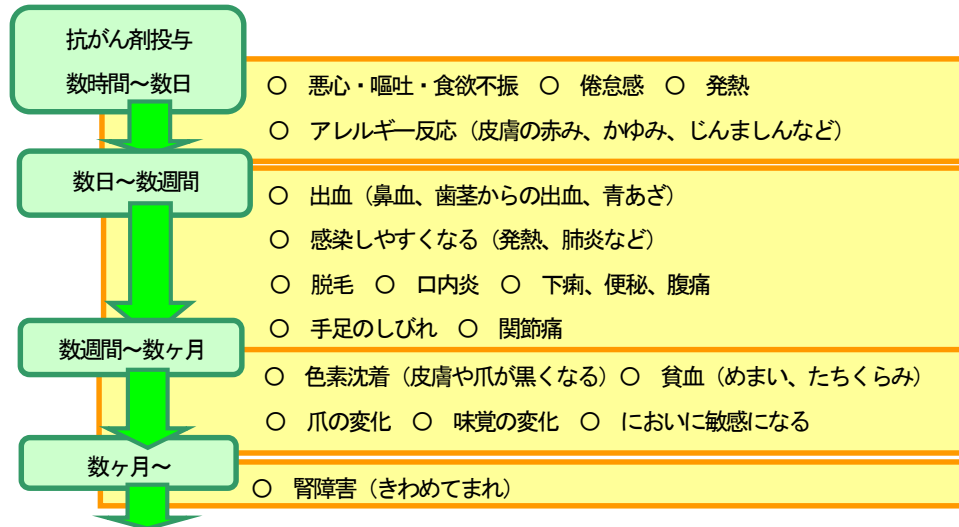
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

* この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【ルンスミオ】

〔サイトカイン放出症候群〕 吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血

〔神経学的事象（免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む）〕 言葉が理解できない、言葉での表現ができない、意識の低下、意識の消失、考える力の低下、記憶力の低下、言葉や状況が理解できない、人や物の名前が分からない、いつもできていたことがうまくできない、筋肉に力が入らない、顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、めまい、頭痛、視力の低下、深く大きい呼吸、手足のふるえ、精神の混乱、異常な行動、けいれん、自分の意思とは関係なく身体が動く

〔血球貪食性リンパ組織球症〕 めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきからの出血、息切れ、息苦しい、動悸、脈が速くなる、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み、咳、痰、体がだるい

〔感染症〕 発熱、寒気、体がだるい、咳、痰、息切れ、息苦しい

〔腫瘍フレア〕 発熱、痛み、紅斑、体がだるい、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、息苦しい、息切れ、咳、胸の痛み

〔腫瘍崩壊症候群〕 意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ

〔血球減少〕 発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、唾液や痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。